



遠回り

第32号 目次

令和六年十一月二十日
認定NPO法人
ロシナンテス 発行

01 ピックアップ

P1.....完成！ザンビアのマザーシェルター2棟目

02 スーダンだより

P2.....軍事衝突から1年7か月、深まる人道危機

P3.....ロシナンテスの事業地はいま

P4.....リバーナイル州アトバラで緊急支援

03 ザンビアだより

P5,6...結核事業 ポータブルX線装置を増設

P7.....母子情報デジタル管理、ニーズ調査

P8,9.....ザンビアの新しい仲間／停電生活

04 読み物

P10,11...曇外蒼天：「大相統時代」の遺贈寄付

P12...日々ツラツラ日記：ザンビア人は勤勉

05 イベント、国内活動

P13.....ゼインさんのスーダン情勢報告会

P14.....イベント・ボランティア募集

P15.....小和田恆さんを囲む座談会

P16.....教育プロジェクト / 能登豪雨被害

06 事務局からのお知らせ

P17...切手・ハガキのご寄付 / 遺贈寄付 / 書籍紹介

P18...スーダンへのメッセージ / 領収書の発送

P19...事務局だより

01 ピックアップ



》 ついに完成！ ザンビアのマザーシェルター2棟目



チサンバ郡のチコンコメニ地域に、2棟目のマザーシェルターが完成しました。この地域では、出産待機場所がないことなどが原因で妊婦さんの約6割が診療所での出産を避けていました。診療所にマザーシェルターを併設することで、陣痛前から滞在し診療所での出産に備えられ、万が一の際にも適切な処置を受けられる可能性が高まります。安全・安心な出産ができるよう以下の設備も整えました。

- ・ 出産待機室(宿泊できる部屋) ・ 職員の当直室
- ・ 産後経過観察室
- ・ 分娩室
- ・ 付添家族の宿泊室
- ・ シャワー&トイレ&簡易調理場

また小型エコーを1台導入し、産前健診で、正確な診断と逆子や危険な兆候を把握することができるようになりました。新生児死亡率や妊産婦死亡率の低減につながる指標として、妊産婦の健診率やエコー受診率も重要視していきます。



診療所スタッフへのエコー研修

今後、マザーシェルターの活用により、以下の効果を見込んでいます。

- ・ 自宅出産、路上出産の減少
- ・ 産前、産後健診の受診率の増加
- ・ 施設出産数の増加

02 スーダンだより



スーダン軍事衝突から1年7か月 深まる人道危機

スーダンで国軍と準軍事組織「即応支援部隊（RSF）」による軍事衝突が発生してから、1年7か月が経過しました。いまだ収束の目処は立たず、人口5千万人のうち、1千万人以上の人々が国内外で避難生活を送る深刻な人道危機が続いています。しかし国際社会のスーダンに対する関心は薄れ、悲しいことに「忘れられた紛争」とも言われています。

当初、国軍が圧倒的優位に立ち戦闘は短期間で終結すると考えられていました。しかし、予想に反してRSFの戦闘力が高く、首都ハルツームやダルフル地域を中心に各地で侵攻を行い勢力を伸ばしてきました。これまで、近隣諸国やアメリカ、国際機関などが何度も仲介努力を行っていますが、停戦協議は実現していません。今年8月にアメリカが主導する形でスイスで開催された停戦協議でも、RSFの代表団が出席したものの、国軍側のブルハン将軍は「RSFを倒すためならば今後100年戦う」と宣言し出席しませんでした。

長期化する戦闘は深刻な食糧危機を招いています。8月に北ダルフル州のザムザム・キャンプで飢きんが確認されるなど、スーダン人口の2人に1人が飢餓に直面しており、国際社会からの一刻も早い支援が求められています。

また6月以降、スーダンでは雨季が始まり、大雨と洪水が続いています。国連の報告によると、9月末までに18州のうち15州、70の地域が影響を受け、17万人以上が避難を余儀なくされました。雨季は収束しつつありますが、影響を受けた地域は食糧不足に加え二重の打撃を受けています。困難に直面しているスーダンの人々のため、私たちにできることを引き続き検討していきます。

02 スーダンだより



ロシナンテスの事業地はいま

事業地の現状について、村の人々から情報を得ることができました。戦闘の直接的被害はないものの、経済や物流、教育などで間接的な影響を受けていることがわかりました。

北コルドファン州オムサマーマ村 地域のリーダー アリさん

——暮らしはどのように変わりましたか？

住民は戦闘による暴動や犯罪行為を恐れています。避難民が流入し商品の不足が深刻です。戦闘や洪水の影響で道路の閉鎖や損傷が起きており、商品の運搬が難しくなっています。物価は2倍に上昇し、経済は不安定で失業者が増えています。住民は飢えを避けるため、農作物に頼っています。



——ロシナンテスが支援した学校や給水所はどうなっていますか？

安全の確保ができないため学校は閉鎖されています。再開の見通しは立っていません。建物自体はきれいに保たれています。給水施設も状態よく機能していますが、避難民の流入で需要が増加し、古い給水施設の給水量が減っているため、負荷がかかっています。

ガダーレフ州シェリフ・ハサバツラ村 村長 ハサンさん

——暮らしはどのように変わりましたか？

流入してくる避難民らには家も公的支援もないため、地域住民がテントや一時的な住居を提供しています。物価は内戦前の10倍で、飢えを避けるために農産物の収穫期に期待しています。また、洪水で農業に影響が出ており、家屋にも被害が出ています。地域によってはコレラやマラリアが流行中です。



——ロシナンテスが支援した給水所や診療所はどうなっていますか？

給水所も診療所も問題なく機能しています。診療所には避難してきた内科医がおり働いています。個人的な努力で薬も入手できています。ただタイヤとバッテリーに問題があり救急車は動いていません。

02 スーダンだより



リバーナイル州アトバラで緊急支援

軍事衝突発生以降、多くの人々が地方都市に避難しています。そのうちのひとつ、スーダン北東部にある都市アトバラで、避難所の衛生環境を改善するプロジェクトを行いました。駐在員のスーダンへの再入国が叶わない中、さまざまな方の協力を得て、遠隔での支援活動を実施することができました。

避難民は学校や病院などの公共施設を避難所として利用しています。しかし多くの施設ではトイレや手洗い場などの衛生設備が整っておらず、感染症拡大などの健康被害が懸念されていました。支援を行った避難所は都市の中心地に位置し、避難民で人口密度が高くなっていました。ほとんどのトイレが使用できず、機能していても不衛生であるため、野外での排泄を選ぶ人もいました。

そこで、ロシナンテスは3つの避難所でトイレの改修を行いました。改修により野外排泄をする人の数が大幅に減っていると報告を受けています。また施設の給水機能を改善するため、水タンクの改修やパイプ、ポンプの補修、手洗い場や洗濯場の整備も実施しています。

アルワハダ・ボーイズシエルトーに設置された水タンク



エルシロール・アルサフラウィ
避難所で改修された屋外トイレ

03 ザンビアだより



ポータブルX線装置を増設 結核の診断体制を強化

ザンビアでは、年間約5.9万人もの人々が結核に感染しており、主要な死亡原因の1つになっています。感染拡大を防ぎ、治療を成功させるには早期発見が重要です。診断には喀痰検査や胸部X線検査が必要ですが、事業地である中央州チサンバ郡とチボンボ郡ではX線装置が不足していました。



X線装置による検査の様子

そこで、富士フィルム株式会社の協力を得て、2023年5月よりポータブルX線装置1台を4つの医療施設で共有する試験事業を開始しました。地域住民が近くの医療機関でX線検査を受けられるようにし、結核の早期診断につなげることを目指しています。

2023年5月から2024年1月までで、合計2456件のX線検査を行いました。このうち1131人に結核の疑いがあり、最終的に144人が結核と診断されました。特に、他の検査では結核と診断されず、X線検査により発見された患者さんは77名もいました。これにより、この事業が結核患者の早期発見に大きく貢献していることが確認されました。残念ながら亡くなった方もいましたが、144名中106名が完治したと報告を受けています。

事業開始前、患者さんはX線検査を受けるために都市部まで行く必要がありましたが、この事業により、居住地近くの医療施設で検査を受けられるようになりました。推定で患者の移動にかかる費用を約270万円削減でき、経済的負担も大きく軽減できたと考えられます。

03 ザンビアだより



X線装置を増やし診断体制を強化

試験導入時にはX線装置が1台しかなかったため、装置を別の施設に持っていくと、他の施設で検査ができませんでした。一部の患者さんは装置があるときに再診に来られましたが、来なかった方々もあり、検査を受けられないケースが発生していました。

そこで、ロシナンテスは外務省からの助成を受け、今年7月にX線装置を4台に増やしました。これにより、さらに多くの患者さんがX線検査を受けられる体制が整いました。



X線検査を行っているリテタ郡病院の技師さんたち

～医療スタッフの声～ リテタ郡病院の看護師 ムタレさん

ロシナンテスは素晴らしい活動をしています。私たちの病院では、かつて古いX線装置を使用していましたが、故障して動かなくなりました。稼働していた頃でも、画像が不明瞭で診断が難しいことがあり、その結果、治療の開始が遅れ、患者さんの命が危険にさらされることもありました。



また、経済的な理由や家庭の事情で、遠方の医療施設まで移動することができない患者さんも多くいます。この事業は、こうした状況にある患者さんに正確な診断を提供することができています。ロシナンテスのおかげで、医療へのアクセスが大幅に改善され、多くの命を救うことができています。

03 ザンビアだより



母子情報のデジタル管理 利用拡大に向けたニーズ調査を実施

ロシナンテスは、2023年9月からスマートフォンを使った母子情報のデジタル管理を試験的に導入しています。専用アプリ「SPAQ」をインストールすることで、産前健診から出産、産後健診までの情報を簡単に記録することができる仕組みです。エコーも利用でき、施設外での健診や遠隔地での集団健診にも使用することができます。この取り組みは「SPAQ」を提供する株式会社SOIKや九州大学などと協力して行われています。

ロシナンテスは現地でのデータ収集・分析などを担当し、これまでに中央州チサンバ郡の4つの医療施設で母子情報を収集してきました。また医療施設スタッフや保健ボランティアへの使用方法の指導も行いました。



保健ボランティアへの使用方法の研修



コミュニティでの聞き取り調査

今年4月からはJICAの支援を受け、利用拡大に向けてニーズ調査が行われました。地域の実態を正しく確認するために、医療施設を訪問し、聞き取り調査も行いました。

調査結果の精査と並行して、現場では作業効率の改善に取り組んでいます。入力作業に時間がかかるため、機能を簡素化することや、医療スタッフが傾向をより簡単に確認できる機能を追加することなど、現場の要望に応じた改良を進めています。

03 ザンビアだより



ザンビア事業部の
新しい仲間をご紹介します！

NEW!



ザンビア事務所スタッフ

フィールド・
コーディネーター
ニユマ



母子保健のSPAQプロジェクトを担当しています。看護師として働いておりました。

私には子どもが2人いて、お休みの日は家族と一緒に過ごすのが好きです。料理、伝統的なダンスを踊ることが好きです。好きな食べ物は、エビやカニなどのシーフード。日本の皆さんが、ザンビアのためにしてくださっているすべてのことに心から感謝しています。

ドライバー
アンドリュー



全員を安全に送り届けることが、私の仕事です。ロシナンテスがザンビアの母親たちのために行っているマザーシェルター事業に大変共感し、入職しました。

趣味は読書やキーボード演奏などです。好きな食べ物は、地元の料理、シマ（白トウモロコシの粉をねった主食）です。皆さま、ご支援いただき本当にありがとうございます。

03 ザンビアだより



ザンビアでの停電生活

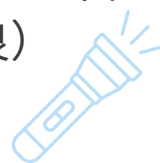
電力不足が深刻化しており、3月から計画停電が実施されています。この停電の原因は過去数十年で最悪といわれる干ばつです。ザンビアの発電量の80%以上が水力発電であるため、雨が降らないと水が不足し、電力供給が追いつかなくなってしまうのです。

ザンビア事務所の3名に聞く「停電生活どうですか？」

キャンドルをつけて音楽を聴きリラックスしたり、たくさんゆで卵を作りおきしたり、自分なりに楽しんでいます！（元インターン 佐々木妙子）



懐中電灯を使いながら、本を読んでいます。冷蔵庫が使えず食料の保存ができないので、ツナ缶のメニューが増えますね。（駐在員 佐藤良）



水は電力で汲み上げるので、停電の時には断水も発生し大変です。計画停電は時間がはっきり決まっておらず不規則で生活が大きく変わりました。（フィールド・コーディネーター グリフィン）



ザンビアのロシナンテスの事務所があるビルには、ディーゼルエンジンで動かす発電機があります。ディーゼルは1リットル180円以上するためとても高価です。しかし、停電時の電力の代わりとして使うことで、何とか事務所の仕事中は凌いでいます。

04 雲外蒼天（1）



「大相続時代」の到来 遺贈寄付は社会を変える力になるか

来年2025年に、終戦直後の第一次ベビーブームに生まれた「団塊の世代」がすべて75歳を越えることになります。これにより近い将来、団塊の世代の資産が相続によって次の世代に引き継がれ、大規模な資産移動が起こると予測されています。こうした社会背景の中で、「遺贈寄付」が注目されています。

「遺贈寄付」とは、社会貢献活動に役立てることなどを目的として、遺言によって遺産の一部またはすべてを、公益法人、NPO法人などの団体に譲渡することをいいます。

「遺贈寄付」で実現できる3つのこと

1 財産の使い道を自分で選ぶことができる

通常、遺言書がなければ法定相続人に財産が分配されます。法定相続人のいない「おひとりさま」世帯では、その財産は国庫に入ります。一方遺言があれば、誰に財産を引き継ぐか指定することができます。遺言書に希望する寄付先を記載することで、応援したい団体にお金を託すことができます。

2 老後の生活資金を心配せずに寄付できる

遺贈寄付は、自分の死後に残った財産から行うため、生前の生活資金には影響しません。もし死亡時に遺贈するとしていた財産がなくなっていた場合、寄付の義務は発生しません。

3 税金の優遇措置が受けられる

基礎控除額を超えた相続財産には相続税が課されますが、遺贈寄付した財産には相続税がかかりません。また、寄付先が公益法人、認定NPO法人などである場合、相続人が行う「準確定申告」の際に、遺贈した金額を寄付金控除の対象とすることができます。

04 雲外蒼天（2）

遺贈寄付の課題、普及のためには

このように遺贈寄付には様々な特長がある一方で、その普及にはいくつかの課題も残されています。日本財団遺贈寄付サポートセンターの調査によると、遺贈に際して懸念する点として、



1. 必要な手続きがわからない
2. 寄付先が自分の意思に沿って使ってくれるか不安
3. どこに相談したらいいかわからない

といった声が多く寄せられていることがわかりました。遺贈寄付には遺言書の作成が必要なため、専門家への相談が推奨されますが、適切な相談先がわからないことが1つのハードルとなっています。また寄付先団体選びに関する不安も大きく、遺贈寄付を躊躇する要因となっているようです。

こうした課題を解決するため、遺贈寄付に関する情報提供や相談体制が拡充されています。全国レガシーギフト協会、日本財団、日本承継寄付協会などでは、専門家へ遺贈寄付の相談ができるほか、寄付先が決まっていない人への団体の紹介も行っています。また遺贈を受け入れているNPOなどの団体も、専用窓口の設置や専門家との連携など、大手を中心に受け入れ体制を充実させています。ロシナンテスでも、よりきめ細やかな対応ができるよう体制を整備しているところです。

遺贈寄付の普及は、社会にお金を循環させ、より良い未来を創る大きなインパクトになる可能性があります。自分の財産を誰にどのように託していくか、これを機会に一度考えてみてはいかがでしょうか。ロシナンテスは、非営利セクターの一員として、より多くの方に遺贈寄付に関心を持っていただけるよう尽力します。

04 日々ツラツラ日記

≫ ザンビアの人々は勤勉で真面目！

こんにちは、ザンビア事務所インターンの大矢千瑛です。約1か月半ザンビアでインターンとして活動しております。到着してから約1週間とまだ日は浅いですが、現地での生活について2つご紹介します。

まずはインフラについてです。ザンビアでは停電がひどく、今年は例年にない異常事態なようです。事業先との話し合いの中でも「because of battery, we can't do...」という言葉をしばしば耳にするほど事業に影響を与えています。もちろん私にとっても初めての経験で不便なこともあります。新しい刺激に毎日ワクワクしながら過ごしています。

次にザンビア人の人柄についてです。こちらでインターンしていて最も衝撃を受けたことは、現地スタッフの皆さんが出勤時刻には必ず全員揃っていることです。以前私はインドやフィリピンなどで活動したことがありましたが、1～2時間遅れてくることは当たり前でした。ザンビア人スタッフの働く姿勢には、とても感動しました。

聞くとところによるとザンビアはアフリカの中でも特に勤勉で真面目な方が多いそうです。さらに、現地スタッフの皆さんは極めて温厚かつ穏やかなので、非常に居心地の良い職場で活動ができることに感謝しています。



現地スタッフのグリフィンとニュマが事業について教えてくれました

05 イベント、国内活動



スーダン人のゼインさんによる スーダン情勢報告会を行いました

2023年4月にスーダンで軍事衝突が始まりました。発生から約1年後の5月、ドバイで避難生活を送るゼインさんが来日し、福岡、大阪、東京、北海道の4都市で情勢報告会を開催しました。



ゼインさんの経営する店舗は、ハルツームで勃発した戦闘地域のど真ん中にありました。店のスタッフとともに約10キロ北へ走って逃げたそうです。避難する道中では、全く知らない人の家に4日間居候したそうです。

その後、ゼインさんらは実家のあるワドメダニに移動しました。2泊野宿しながら徒歩で移動し、やっとの思いでたどり着きました。ある日、お父さんは空腹を我慢して、ゼインさんに食べ物を譲ろうと「お腹いっぱい」と言い食べなかったそうです。お父さんの優しさに触れ胸がいっぱいになったというお話をしてくださいました。

12月になり、RSFがゼインさんらのいるワドメダニにまでやってきました。家族の安全のためウガンダへ避難することを決意します。その後ゼインさんは単独ドバイへ居を移し、今現在は働きながらウガンダの家族に仕送りをしているそうです。

一日も早くこの内戦が終結し、スーダンに平和な日常が戻ってくることを願ってやみません。引き続きスーダンの現状にお心をお寄せいただけたら幸いです。

05 イベント、国内活動



参加費無料 イベント・ボランティア ぜひご参加ください

お申込フォームの利用が難しい方は、

(A) メールもしくは、(B) お電話でご連絡ください。

(A) メール：宛先／info@rocinantes.org

件名／活動報告会申込 もしくは ボランティア申込

メール本文に以下の項目のご記載をお願いいたします。

・参加希望の日付・お名前・メールアドレス・聞きたいこと

(B) お電話：認定NPO法人ロシナンテス

TEL 093-521-6470（受付：平日10時～17時）

■活動報告会■2025年1月13日（月・祝）16:00～17:30

【オンライン】《ご支援者様限定》

皆さまのご支援でできたこと～2024年を振り返って

ザンビアの活動報告に加え、年内にスーダンに渡航予定の理事長
川原より、スーダンの現状や今後の展望についてお話します。

場所：オンライン(ウェブ会議ツールzoomを使用予定)

[>>お申し込みはこちらから](#)

■ボランティア■2025年1月25日（土）15:00～17:00

【北九州】事務作業のボランティアさん10名程度募集

皆さまからいただいた切手・はがきの仕分け、書類の封入作業な
どをお手伝いいただける方を、10名程度募集します。

場所：福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35

北九州市立商工貿易会館 701会議室

[>>お申し込みはこちらから](#)

05 イベント、国内活動

小和田恆さんを囲む座談会を行いました

元国際司法裁判所所長である小和田恆さんをお迎えして、「日本とアフリカの将来を考える座談会」を開催しました。

小和田恆さんは40年近くにわたって外交官として活躍され、TICAD(アフリカ開発会議)の立ち上げに尽力、その後国際司法裁判所所長などを歴任されました。「経済の発展＝国の発展ではない」「パートナーシップ」など、現在の国際協力における重要な概念は、小和田さんが日本に持ち込んだと言っても過言ではありません。



和やかに撮影は終了。
学生さんたちは熱心に
小和田さんのお話に耳を傾けていました

座談会では、理事長の川原がファシリテーターを務め、国際協力に関心を持つ高校生、大学生、大学院生にもゲストとしてご参加いただきました。「開発にはメリットが必要か?」「中国と日本のアフリカ進出の違いとは?」「アフリカの発言力を高めるためには?」などの学生からの投げかけに対して、小和田さんは非常に示唆に富むお話をしてくださいました。学生との対話をぜひご視聴ください。

本編はこちら(1時間23分) >> <https://youtu.be/PEJaNSEdPlc>

ダイジェスト版はこちら(6分)>> <https://youtu.be/5w21KDdGA2U>

05 イベント、国内活動



今年度も「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」がスタート

2024年度も「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」が、北九州市のふるさと納税を活用した協働のまちづくり推進事業に採択されました。2年目の実施となります。北九州市内の小中学校およそ20校で、アフリカの生活や文化、NPOの活動を教材とした出前授業を実施し、子どもたちの国際理解を深め、自らの夢や将来を広い視点で考えるきっかけを提供していきます。また授業で得た学びを深めるため、来年3月には児童・生徒らが参加するプロジェクト報告会も開催予定です。

※本プロジェクトは、北九州市の企業版ふるさと納税からの補助金を受けて実施します。



能登半島で豪雨被害 珠洲市に再びボランティアを派遣

9月下旬、復興途上にあった珠洲市で豪雨による洪水が発生しました。これを受け、ロシナンテスは、医療支援活動を行うHuMA（特定非営利活動法人災害人道医療支援会）と共同で、市内の高齢者介護施設で支援活動を行いました。ロシナンテスは現地で活動するボランティアを募集し、10月に1名の看護師を派遣しています。



能登半島地震で珠洲市で活動する
医療ボランティア

ロシナンテスの主な活動地域はアフリカです。しかし、日本国内で災害が発生した際には、このような協力関係を築きながら、できる限りのサポートを提供していきたいと考えています。

06 事務局からのお知らせ



切手やはがきのご寄付を ありがとうございました

前回の遠回りで、切手や書き損じはがきなどのご寄付の呼びかけを行ったところ、450通以上もの郵便物が届きました。6月にボランティアの皆さまの協力を得て、これらを種類別に分ける作業を実施しました。換金のうえ、アフリカでの支援活動に大切に使用させていただきます。



遺贈寄付パンフレットが 新しくなります

近年「法定相続人がいない」など様々な理由で、NPO法人や公益法人などに、遺産を寄付したいと考える人が増えています。ロシナンテスでも、財産を有効活用したいとお考えの方のお手伝いをしています。この度、遺贈寄付パンフレットをリニューアルを予定しています。遺贈に詳しくない方にも手に取っていただけるよう、具体的な事例もご紹介し、基礎や手続きの流れ、ロシナンテスがサポートできることを分かりやすくご案内いたします。

ご希望の方は、以下のフォームからお申し込み、または事務局までお問い合わせください。※発送は2025年1月以降となります。

[>>資料請求はこちらから](#)



今だからこそ読んで欲しい 『行くぞ！ロシナンテス』

2015年に理事長川原が書き下ろした書籍です。スーダンで活動を始めた経緯や「医」を届ける活動の道のり、出会った人々との交流が描かれています。

[>>ご購入はこちらから](#)（山川出版社）



06 事務局からのお知らせ

「いつも気にかけています」 スーダンの人々へのメッセージ

日本では、厳しいスーダンの現状について、話題にのぼることはほとんどありません。ロシナンテスでは、「忘れられた紛争」にしないために、皆さまからメッセージを募集しました。インターンスタッフがアラビア語に翻訳し、SNSを通じてスーダンに届けています。>>大きくメッセージをご覧になりたい方はこちら



日本からスーダンの人々へのメッセージ

スーダンの友達へ

同じ空の下にいる僕の友達、君はひとりじゃないよ。僕は、いつも君のそばにいるよ。君が月を見る時、僕も同じ月を見ている。君が大地に手を触れる時、僕も大地に手を触れるよ。

だから、あきらめないで！
君と一緒に、明日に向かって歩きだそう！
僕と手をつなぎ、声を出そう！
もっと大きく、もっと強く、世界へ！

スーダンのみんなの笑顔、優しさを忘れません。 スーダンを離れた日からずっと、いつかまた必ず会えることを信じています。どうか無事でいてください。愛に溢れたあなた達が大好きです。

コーヒーを入れながら歌ってくれた歌、車の中までびちゃびちゃにしてワイルドに洗車してお見さん、人生で一番おいしかったグレープフルーツジュース、素直に人々を愛してくれたことと道行く知らない人もみんなびっくりするくらい親切だったこと。全部大切なあなたが思い出です。1日も早く平和が戻ることをずっと祈っています。

一人一人が希望の☆

いつも気にかけています。
頑張ってください。

スーダンのことをいつも気にかけています。国内外のスーダンの皆様が、国に戻って平和に暮らせるように祈っています。

1日も早く紛争が終わる事を祈っています。

一日も早く平和と安穏が戻るよう、日本の地から毎日祈っております。

スーダンと日本は遠く離れていますが、心はスーダンの皆様と共にいます。

軍事衝突からちょうど1年。今も大変な状況とは思いますが、そして私たちにできることはないかもしれませんが、ずっとずっと応援しています！頑張ってください！

何故かスーダンに傾いていますが、いい思い出がありません。その地が、激しい戦闘により壊滅状態にあると知ると、とても心を痛めております。かつて日本も、戦争により壊滅的な状態にありました。人々の頑張りによって復興し、今の日本があると思っています。きっと、スーダンも、そんな未来があるはず！その未来を信じて、一緒に頑張らしましょう！

痛みは私たちも共有します。あなたたちの苦しみを忘れることはできませんが、あなたたちの希望に向かう勇敢な姿を忘れないことと一緒に前に進むことはできます。希望を捨てないで。一日も早く皆さんに平和な日常が戻りますように。

どうかスーダンが一刻も早く平和に安心して生活できる状況になることを祈っています。日本にいて日本人の私がスーダンのためにできることはなんなのかなと、常に情報収集し、行動していきます。平和になったスーダンに行くことを夢に、できることをがんばります。スーダンの友達が笑顔で優しいスーダンの日々に戻ることを祈っています。

エジプトに出国して川原理事長と再会できたスタッフもいるというのは、厳しい状況のなかで数少ないうれしいニュースでした。でも、もちろん母国での生活が一番だったでしょう。いまだにスーダン国内で過酷な生活を強いられている人が多いことを考えると、本当に胸が痛みます。日本から形としてできることは少ないですが、応援し続けたいので、希望を失わずにいてください。

報告会、ありがとうございます。

川原先生、サイン内から生の情報状況をお聞かせし、命の危険な状況からの退去については、普段のニュースの一部よりもとても強く感じました。

今のスーダンで状況をよく見てゆくりと休める時はないのではないかと想像を絶しました。

今の状況下においても、これから先しっかりと見られていくことが素晴らしいことだと思います。

今、私に出来ることはほんのわずかなことですが、それがないよりもやりたいたい！やらなければと強い思いを繋げて行きたいです。

おれないうち。遠く国からあなたたちを思っています。言葉が無力にならぬよう、言葉が無力にならぬよう、生き残る力をあきらめません。

毎日、皆さんの心の平安をお祈りしております。

スーダンも、スーダンの人々も、大好きです。また行ける日を夢見ます。

皆さんの今目の前に起きていることはちゃんと伝わっています。一日も早く状況が良くなるよう今日本に出来ることを全力でやっています。皆さんが大切な家族と温かい時間を安心して過ごせる日が1日も早く訪れる事を心よりお祈り申し上げます。

12年ほど前に現地で共に働いたスタッフやその家族、住民の方々と良い思い出はいつも心の中にあります。当時一緒に働いていた現地医師からは今の逼迫したスーダンの状況を伝える連絡があり、皆さんのことをとても心配しています。いつか自分の子どもを連れてスーダンの皆に再会できるような平和が戻るよう自分にできることをしていきます。

慣れ親しんだ場所が火事で傷ましい事になったとき、何か自分の一部を失ったような何とも言えない空虚感に苛まれました。戦争によって失われた祖国、そしてその祖国を離れる辛さとは比べ物にならないと思いますが、ただただ未来を信じていまを生きてほしい。スーダンにとって大切なことを当事者たちが早く気付いてくれることを祈っています。

一日も早い終戦を。皆様の無事故とご健康を祈ります！どうか御自愛ください！

#keepEyesonSudan

領収書の年一回発送についてのお知らせ

毎月ご支援いただいている方（クレジットカード・口座振替）、年一回発送をご希望の方には、2024年分のご寄付（1～12月受領分）をまとめて記載した領収書を2025年1月末までに発送予定です。予定日を過ぎても届かない場合は事務局までご連絡ください。

06 事務局からのお知らせ

事務局だより

ザンビア駐在員の田中です。日本ではあまり報道されていませんが、昨年7月から始まった世界規模のエルニーニョ現象の影響で、南部アフリカでは深刻な雨不足と食糧危機が起きています。今年の2月29日には、ザンビア政府が非常事態宣言を出しており、4月時点で660万人に支援が必要と報告されています。

干ばつの影響は首都ルサカも例外ではありません。雨不足による停電が続いています。計画停電が続いており、9月には2日に1回3時間程度しか電気がないこともありました。

電気コンロをガスに代える、冷蔵庫が使えないため食料を少しずつ買うなど生活スタイルを変えました。家に帰っても電気がないため、パソコンや携帯の充電には気を遣います。もうすぐ雨季がやってきますが、今年こそは大量の雨が降ることを願うばかりです。